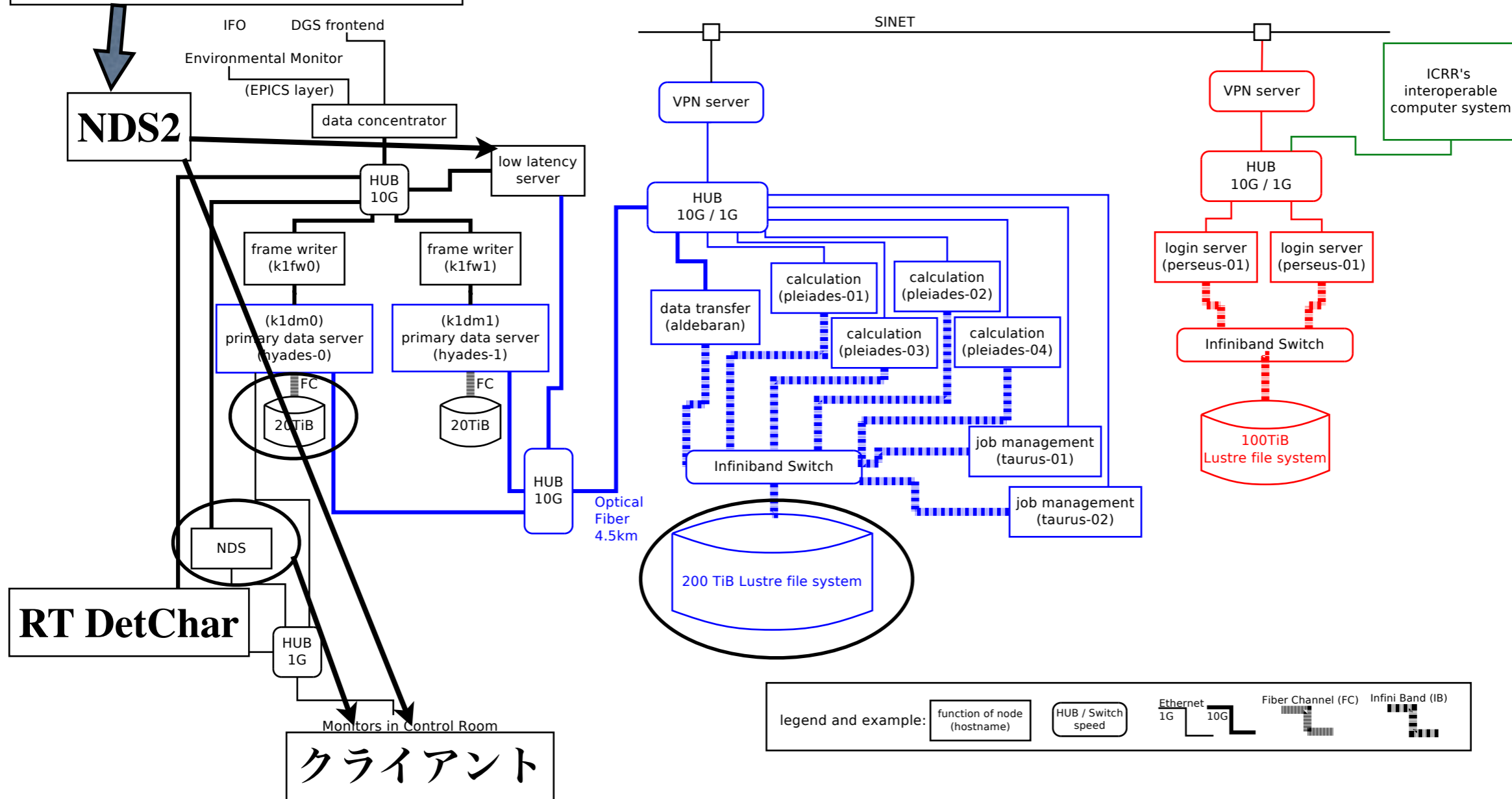


データ取得部の簡単な進捗状況

端山和大

Data flow

計算機は納入された。
 近くNDS2サーバー構築
 に神岡に行く。



データ取得方法：NDS2, メタデータサーバ、キャッシュ
 ユファイルを検討

キャッシュファイルによるデータ取得



- オフライン解析などで、基本的にはすべてのデータを解析する場合、毎回データベースサーバに問い合わせたり、NDS2サーバーにリクエストを出したりするのは効率的にならない場合が多い。
- データが保存される領域が決まっている場合、その中のデータファイルがリストされているキャッシュファイルリストを一定間隔で作ってやり、そのファイルに基づいてデータを解析する。
- 同様に、データ解析前に用いるDQフラグ（Science modeかどうか等）についてもキャッシュファイル化する。
-

LIGOの例

- バースト解析などはキャッシュファイルによるデータ取得がよく用いられている。

```
% The resulting frame cache file consists of whitespace delimited ASCII
% text and contains one line for each contiguous data segment with a
% common site, type, stride, and directory. Each line consists of the
% following six columns.
%
% * site designator (e.g. 'H' or 'L')
% * frame file type (e.g. 'RDS_R_L3')
% * GPS start time of segment
% * GPS stop time of segment
% * frame file stride in seconds
% * full path name of directory
%
```

現在のキャッシュファイル



- 必要なデータの始めと終わりのGPS時間を与えると、そのデータが入っているファイル（複数可）がアウトプットとして表示（ファイルとして保存）される。

<http://gwclio.icrr.u-tokyo.ac.jp/lcgtsubgroup/detectorcharacterization/2014/05/gps-time.html>

○